

教育基本法「改正」法案

「戦争する国」を担う人づくり



安倍新政権が発足しました。安倍首相は所信表明演説で、改憲法案の成立を表明しました。戦前の教育が国民を侵略戦争に駆り立てた反省から、教育基本法は、政府が教育内容に介入することを禁じました。与党案はその基本を変え、教育を時の政府の支配下に置くとともに、教育にいつその競争・格差をもたらし、「戦争する国」「弱肉強食の格差社会」を担う人づくりをめざすものとなっています。

教育の格差を大きく拡大

現在の日本の教育は、国連から「極度に競争的な教育制度が子どもたちの発達をゆがめている」と繰り返し指摘されています。

教育基本法「改正」案の「教育振興基本計画」は、「競わせる教育」がかげ、全国一斉学力テストなどを進め、できる子、できない子で教育条件の格差をつけようとしています。これでは、ますます競争が激化するばかりです。

今の教育に求められるのは、少人数学級の実現や高校・大学の世界一高い授業料の是正です。

お国のために命を捧げる人をつくる

国会の論戦で問題になっているのが、「愛国心」など「心の問題」を法律で強制することです。

1945年の終戦まで学校教育で生徒全員が暗記させられた「教育勅語」は、戦争になれば天皇のために命をささげることがを国民に求めました。自民党や民主党の議員は、国会で「教育勅語」を賛美し、「愛国心」教育を行うよう主張しています。

自民党は昨年、国連も抜きに海外で戦争できるように憲法を変える案を出しました。教育基本法の「改正」は、「戦争する国」を担う人づくりをめざすものとなっています。

学力世界一 日本の教育基本法を 手本にしたフィンランド

学力世界一のフィンランドの教育が注目されています。フィンランドの教育は、日本の教育基本法を参考に、6・3制の総合学校制度に作り替えるなど、「平等と共同」を大切に教育をすすめてきました。

教育基本法を豊かに生かす事こそが、学力や人格の発展のための力です。

